

すみだ環境共創区民会議

平成 31 (令和元) 年度・令和 2 年度

活動報告書



墨田区環境キャラクター 「地球くん」

令和 3 年 3 月

すみだ環境共創区民会議

目 次

1	すみだ環境共創区民会議	1
2	これまでの活動内容	2
3	今期の活動の詳細	6
	(1) 区内フィールドワーク	6
	フィールドワークまとめ資料	7
	(2) 環境フェア	13
4	活動のまとめ	15
	すみだ環境共創区民会議委員名簿	巻末

1 すみだ環境共創区民会議

すみだ環境共創区民会議は、平成7年度に策定された墨田区環境誘導指針に基づき、区が行う施策等について区民及び事業者の意見・要望を反映させるために、「すみだ環境区民会議」として設置されて以来、2年間で1期として活動している。その後、平成18年度に施行されたすみだ環境基本条例により、区における環境の共創（ ）に関する施策を総合的に推進するための会議として位置づけられ、名称を「すみだ環境共創区民会議」と改めた。

なお、すみだ環境基本条例では、すみだ環境共創区民会議は次に掲げる事項を行うこととしている。（すみだ環境基本条例第20条第2項）

- 環境基本計画（すみだ環境の共創プラン）のうち、区民及び事業者の活動と区の施策との整合性に関し協議すること。
- 環境の共創に関する実践活動を行うこと。
- 環境の共創の推進について、必要に応じ区長に意見を述べること。
- そのほか、環境の共創の推進に当たっての重要な事項に関し、協議すること。

環境の共創とは「良好で安全かつ快適な環境の維持、回復及び創造並びに環境との共生をいう。」（すみだ環境基本条例より）

2 これまでの活動内容

平成18年度

すみだ環境共創区民会議の発足にあたり、区民会議の運営方法や開催頻度、活動テーマ等について議論するとともに、環境基本条例の普及・啓発や環境基本計画の策定に向けて、グループに分かれての検討をおこなった。また、花王墨田工場や区内の公園への見学会を実施した。

平成19年度

雨水やエネルギー、公園やごみ問題など、多様な環境問題に関するテーマに対して各委員が講師となり、それぞれの活動分野についての勉強会を中心に活動を行った。

平成20年度

省エネ生活をテーマに、各委員の家庭の光熱水費の調査を中心に活動をおこなった。また、墨田区環境審議会の委員でもあった須田孫七氏を講師にお招きして墨田区の生き物についての講演会を実施したほか、東武タワースカイツリー株式会社の担当者を講師として、スカイツリーの環境影響評価について勉強会を行った。

平成21年度

すみだ環境区宣言の実施について議論した。また、緑と生物の現況調査、緑の基本計画、緑と環境に関する講演会の聴講など、緑、生物について主に活動を行った。

平成 2 2 年度

前年度に引き続き緑を活動テーマとして、区内の道路公園の緑や東京都の緑の計画について講演を聴講するなどし、6月には尾瀬で宿泊研修を実施し、委員間の親睦を深めるとともに、尾瀬の緑を守るための取り組みを学び、東京の今ある緑を守るために何ができるかを考察した。

平成 2 3 年度

環境の共創プランの改定に向けた意見集約をした。また、翌年の環境フェアから区民会議のブースを出すことを決定し、後期は出展に向けた事前準備をおこなった。

平成 2 4 年度

すみだまつりで区民会議のブースを出し、区民会議の活動とプランの基本目標 1～5 の紹介をおこなった。また、後期には緑化や環境区宣言の周知方法について、グループに分かれて討議を実施した。

平成 2 5 年度

現行のプランで掲げている基本目標 1～5 について理解を深めるために、一年間かけて勉強会を実施した。

平成 2 6 年度

前年度の活動内容を基に水、緑、ごみの 3 つをテーマとしてグループに分かれて勉強、議論をし、それぞれのテーマについて提言をまとめた。

平成 27 年度

平成 28 年 4 月から始まる今後 10 年間の環境基本計画である「第二次すみだ環境の共創プラン」の内容について、主に意見交換を中心に活動した。

平成 28 年度

過去の活動の反省から、毎回違う議題に移るのではなく、場所やテーマを絞り、一年間同じテーマで実践活動を行うという方法を取った。本年度は荒川にテーマを絞り、施設見学会や勉強会、現地調査を通じて荒川の環境についての知識を習得し、環境フェア、すみだまつりにおいては荒川の区民の意識調査を行い、我々が考える荒川の環境と区民の意識はどのように違っているかについて考察した。

平成 29 年度

区内の緑や生物に焦点を絞って活動をおこない、環境フェアやすみだまつりでは環境マップの作成やアンケートによる意識調査を実施した。1 月には東京パワーテクノロジー株式会社（旧尾瀬林業）の担当者のご講演を受講した。2 月には区内の緑化関連施設の見学を実施し、香取神社の紅梅園や旧中川河川敷、緑と花の学習園を訪問した。また、3 月には区の緑化推進担当職員による講義を受講し、区の緑化、生物に関する施策への知見を深めた。

平成30年度

6月の環境フェアで区民はどの環境問題に興味関心があるのかをアンケート調査し、その結果、最も区民の興味関心が高かったごみ・リサイクルの問題についてすみだまつりで掘り下げたアンケートを行った。それ以外は前年に引き続いて緑・生物に関する活動を実施した。8月には都心の緑を見に行くということで、文京区の小石川植物園と小石川後楽園の緑を見学した。12月には今年実施した緑と生物の現況調査の報告を区の職員から受けた。

平成31年度（令和元年度）

前年度に引き続き緑・生物についての議論を行い、第二次墨田区緑の基本計画の策定が控えていることから同計画担当職員も交えて緑についての意見交換を行った。また、区内の緑の実態を探るためフィールドワークを行い議論した。

環境フェアでは区民会議の活動をPRするため、区民会議の役割についてパネルを作成し、訪れた方に説明を行った。

令和2年度

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部開催自粛をしたほか、感染対策を徹底した上で会議を行った。会議では、前年度に行った緑化の現況に関するフィールドワークを踏まえ、区内の緑化に関する発見、課題や要望等を共有し、今後の緑化の進め方に関する意見交換を行った。

区民目線での活動として実際に区内の現況を見て直接感じたことが、令和3年度に策定予定の第二次墨田区緑の基本計画において、区の現状を踏まえ、環境の共創に向けた計画として反映されるよう、区に対し意見を表明した。

3 今期の活動の詳細

(1) 区内フィールドワーク

緑の基本計画に関する議論を行うに当たり、区内の緑の状況を把握するためフィールドワークを行った。

ア 令和元年度

(ア) 日時

令和元年 11 月 30 日 (土)

(イ) 場所

京島地区、多門寺農園、八広地区、東墨田地域、文花地域、
押上地域、菊川地域、亀沢地域



イ 令和2年度

コロナ禍のため、令和2年度においては区内フィールドワークを開催せず、前年度に行ったフィールドワークを踏まえて今後の緑化の進め方に関する意見交換を行い、区に対し意見を表明した。

すみだ環境共創区民会議フィールドワーク
(緑化の進め方など)

2020.11.27

すみだ環境共創区民会議

すみだ環境共創区民会議は、令和2年度(令和3年度に変更)に改定を予定している「墨田区緑の基本計画」の基礎資料である「墨田区緑と生物の現況調査」の報告を受け、令和元年11月、区内の緑の現況と課題等を把握するため、「墨田区緑と生物の現況調査」での地域区分に従い、6地域のフィールドワークを行った。

フィールドワークの結果について、地域別の感想などは、「すみだ環境共創区民会議フィールドワーク(感想シート)」として、またフィールドワークを踏まえ、第10回すみだ環境共創区民会議で行った意見交換での緑化の進め方のヒントとなる意見などは、この「すみだ環境共創区民会議(緑化の進め方など)」にまとめました。

【墨田区の緑化全般】

- ・必要なところを見定めて重点的に緑地にする等、目的をもった緑化ができるとうい。
- ・地域ぐるみの緑化の拠点づくりができるとうい。
- ・緑化に向けた仕組みや活動などをより身近に感じてもらうため、また、緑化を効果的に進めるため、区民が行っている自主的な緑化活動、企業による緑化活動などを紹介するとうい。
- ・景観と防災を考慮し、荒川の堤に桜の植林ができるとうい。
- ・コンクリートの土手などの緑化について、北十間川水辺のブロックを活用した緑化がヒントになる。
- ・ストーリー性のある植樹ができるとうい。

- ・シンボリックな木の育成ができるが良い。
- ・河川の多い墨田区の特徴を生かし、それら河川の水辺を美しく緑化・整備することが魅力的な区の PR につながる。現在行われている北十間川の工事でも、水辺の緑化・整備を行うことが必要である。
- ・街路樹、公園・グラウンドなどの緑化に関する区の所管（連絡先）、管理方法を明確にしてほしい。

【家庭】

- ・路地裏玄関先などの手入れされた草花や樹木など、墨田区らしい緑の維持ができるが良い。
- ・区民によるプランターや花壇による緑化を促進する事業では、単に数を増やすのではなく、維持、管理する責任などについても明確にすると良い。
- ・プランターや花壇での草花の栽培に統一感をもたせると良い。また、プランターや花壇に多年草の花を植えることができないか
- ・墨田区は宅地の狭い建物が多いことから、一般家庭を通じての緑化としては、個人の敷地にある手入れされた樹木が緑化のヒントとなる。
- ・学校の花壇での草花や野菜作りなど子どもの頃から土に触れ、環境について学ぶ機会を増やすと良い。またマンションや家庭のベランダで樹木や草花を育てるなど、身近で緑化を楽しむ機会を増やすことも良い。

【街路樹】

- ・街路樹を増やした方が良い。
- ・道路の拡幅工事の際に、街路樹の整備を積極的に進めた方が良い。
- ・安全管理のため、樹木の剪定や危険な樹木の伐採をすると良い。
- ・樹木を計画的に植え替えしていくと良い。
- ・街路樹の樹種に地域の特殊性や多様性をも考慮して、適正な樹種を選定すると良い。

- ・ 緑豊かにしている街路樹や公園の樹木などが、突然、伐採されることがある。公共の街路樹や公園の樹木などが、なぜか、簡単に伐採されている。
- ・ 樹木の剪定や伐採など街路樹の問題について区の連絡先を明確にしてほしい

【公園、グラウンド】

- ・ 「わんぱく天国」は、狭い空間を有効に活用して緑豊かな公園にしていると感じた。
- ・ 区民が責任をもって管理している公園もあり、区民による公園緑化の重要性も周知できると良い。
- ・ 公園やグラウンドにフェンスがあるが、蔦などによる緑化はできると良い。
なお、公園やグラウンドのフェンスの緑化のため、委員の自宅に茂っている管理が不要な樹木を提供するとの発言もあった。
- ・ 費用対効果を考え、芝生に限らず、雑草の活用も検討できると良い。
- ・ 多門寺地域にはあまり緑を感じず、そこにあったグラウンドを緑化できると良い。

すみだ環境共創区民会議フィールドワーク

感想シートまとめ（地域別）

【京島】

- ・街路樹、道路脇に緑が多いと感じた。
- ・荒川・四ツ木緑地（堤防）コンクリートの土手、河川敷を緑化推進できると良い。
- ・緑化に当たって、区民の声を聴きながら、具体化させていくと良い。

【多門寺農園周辺】

- ・白髭東地区避難場所や荒川河川敷、寺社も緑が豊かで緑被率は高い。しかし、少し離れたところは住宅が密集し、道路が狭く、運動場には緑がないため、緑視率が低く、これらを緑化推進できれば、緑視率の向上が期待できると感じた。
- ・畑を見学し、野菜が植えられているのが新鮮に感じた。
- ・垂直方向の緑化推進には、蔦が有効だと感じた。
- ・玉ノ井まちづくり協議会に、緑化PRの促進等を働きかけるというのも良い。

【八広】

- ・街路樹等が低く、緑視率が低いと感じた。今後、街路樹等の成長により緑被率、緑視率が上がる可能性が高いと感じた。
- ・玄関先の緑がきれいに手入れされていた家もあった。

【東墨田】

- ・街路樹、道路脇の植栽帯などが整備されたばかりのところもあり、今後、街路樹等の成長により、緑被率、緑視率のアップが期待できると感じた。
- ・荒川河川敷や旧中川河川敷が緑被率を高くしていると感じた。
- ・旧中川沿いはきれいに整備されていたと感じた。

【文花】

- ・ 樹木被覆地の広い集合住宅、樹木が茂っている公的な機関などがあり、緑被地、緑視率も高いと感じた。建物の建て替え等から樹木被覆地が減少したとあるが、新たに植樹され、樹木の成長により樹木被覆地も回復可能であると感じた。
- ・ 緑と花の学習園があるが、緑に対して関心がある地域と感じた。緑と花の学習園を整備し、お茶を飲んで一息つけられるような空間があれば良いと感じた。
- ・ 今後のフィールドワーク等で緑と花の学習園に訪れ、緑化推進の具体的な方策について考えていきたい。
- ・ 十間橋通りで、車内から見た情報経営イノベーション専門職大学（U）の緑地が良かった。区の児童遊園など、誰もが入れる緑地を増やせると良いと感じた。

【押上】

- ・ スカイツリー周辺は商業施設等の敷地内の樹木被覆地などにより、緑視率が高いと感じた。
- ・ わんぱく公園は緑が多く、良い環境だと感じた。
- ・ 草を増やして、盛土を草で覆い、敷地内でクローバーなどを植えれば、子どもたちが緑に親しみ、観察できる場にできると思う。
- ・ 色鮮やかな葉、アサガオなどの花が咲く植物を増やせば、インスタ映えして観光にも役立つと思う。

【菊川】

- ・ 街路樹や新しく建設されたマンション等の敷地内の緑が緑被率に貢献している。
- ・ 緑被率の向上には、街路樹等の充実、公園などの緑化推進が必要である。
- ・ 緑、立川、菊川地域の公園は、緑被率が36.29%と墨田区の平均値（51.1%）よりも低く、公園の緑被率を上げる必要があると感じた。
- ・ 水辺を整備し水も清らかにして緑を感じられるような環境になれば良いと感じた。
- ・ 江東区との区界を通る際に、両区の街路樹の違いを感じた。隣接区との見学会、

意見交換会により、墨田区の参考になる事例を得ることができると感じた。

【亀沢】

- ・街路樹が成長して緑視率が高いが、枯れて危険なものもあった。緑視率を維持するためにも、計画的な植え替えが必要であると感じた。
- ・緑が少ないイメージを持っていたが、思っていたよりも多かった。
- ・緑公園は、ほとんど緑がないため、もっと緑を増やして、憩いの場にできれば、様々な場面で楽しめる場所になると感じた。
- ・緑町公園テニスコート横の砂地を草地にすれば、訪れた人が安らげる地域になると感じた。
- ・テニスコートのフェンスをアケビ、アサガオ、キウイ、ゴーヤ、蔦などで緑化を推進できると良いと感じた。また、テニスコート横の砂地は北斎美術館からよく見えるが、フェンスの緑や花の緑で写真撮影できるようになれば良い。SNSなどでPRできれば、墨田区的环境区宣言が可視化されて良いと感じた。

《全体を通して》

- ・現況調査報告書では各地域の緑被率、緑視率には差があるようだが、今回は表通りを中心に観察し、樹木が落葉しているためか、一部地区を除き、視界に入る緑被率、緑視率にはあまり差がないように感じた。
- ・墨田区は庭のある一戸建ての住宅地が少なく、地域の緑被率の差は、一部地域にある大規模緑地や樹木被覆性の高い集合住宅地域の差によるものと感じた。
また、墨田区は緑被可能な裸地が少なく、緑化には限度があり、屋上緑化や壁面緑化の推進以外での大幅な緑被率のアップは難しいと感じた。
- ・緑視率の向上のため、街路樹や道路脇の植物帯の維持・充実が必要だが、公園や運動場の緑被地の拡大や駐車場を緑化推進することも良いと感じた。

(2) 環境フェア

すみだ環境共創区民会議の役割等をまとめたパネル及びSDGs（持続可能な開発目標）の重要性をまとめたパネル等を作成、展示したほか、レジ袋やペットボトルなどプラスチックごみの削減、節水・節電など環境保全の重要性や日常生活における工夫がSDGsの達成に貢献できることを説明した。

ア 令和元年度

(ア) 日時

令和元年6月29日及び30日

(イ) 場所

すみだリバーサイドホール イベントホール



(ウ) 参加した委員の感想

- ・当日は雨天だったが、多くの方が訪れ興味をもっていただいた。
- ・環境問題に対する関心度について、人によって温度差があることを感じた。
- ・海洋プラスチック問題について、関心の高い方が多いと感じた。

- ・パネルの写真に興味をもつ方が多く、写真の活用は効果的であると感じた。
- ・啓発の中で、遊びや体験ができるような工夫があると、子どもも参加しやすいと感じた。
- ・環境問題の中でも、生活の中で身近に感じるようなことは関心をもってもらいやすいと感じた。
- ・人によって、関心を高いものが異なるため、世の中の情勢に合わせてながら企画を考えることができると良いと感じた。
- ・すみだ環境共創区民会議の活動を、もっとPRしていきたい。

イ 令和2年度

コロナ禍のため、令和2年度においては環境フェアが中止となり、その他の啓発活動等も実施しなかった。

4 活動のまとめ

ここでは、今期2年間（平成31（令和元）年度～令和2年度）の活動のまとめとして、感想や来期に向けての意気込み等、各委員から投稿いただいた内容を掲載しています。

まさにコロナに翻弄された一年でした。

緑の基本計画を精査する前提として、区内の緑の現状を把握する為にフィールドワークを実施しました。結果を踏まえて議論を始めた時にコロナが襲いました。十分とは言えないが、フィールドワークの結果をまとめ共有化までこぎつけることができホッとしました。

来期は、緑の基本計画を進める上で区民としてやるべきことをフィールドワークの見聞を活かし、具体的かつ効果的に検討することが可能と思います。

直近の住民意識調査から、プラスチックごみや食品ロスの削減に関心が高いことが分かります。来期の取組課題もこの二点が選択肢となると思います。フィールドワーク等の今期活動のノウハウを生かし、現状を踏まえた具体的な取組を推進する。環境問題への取組はそうした区民目線での地道な活動が基本だと思います。そして国が目指す2050年二酸化炭素排出ゼロに繋がります。

すみだ環境共創区民会議 会長 宇田川 明

今期は、第二次墨田区緑の基本計画策定に向けて、主に墨田区の緑について検討してきた。前半でフィールドワークなども実施し、身近なテーマであったため、議論もいつにも増して活発に行われた。フィールドワークでは、区内の様々な地域を巡り、同じ区内でもそれぞれ特色があり、多門寺農園やわんぱく公園など工夫を凝らして緑を楽しむ場を創出しているところもあることを実感できた。

しかし、まだまだ 23 区でも緑被率が低い墨田区で緑の量と質を向上させていくためには、「区民一人ひとりが生活に身近な場所から緑を育む担い手となるための取組」は重要なポイントで、「区民」には事業者や在勤者等も含まれると思う。どの地域にこういった取組が有効か、それを実施するためのネットワークづくりなど、さらに詳細に検討していきかけたが、後半は新型コロナ対策で会議をなかなか開催できず、非常に残念であった。来期以降にぜひ検討していきたい。

森下 香洋子

前任より引き継ぎ、今年 10 月より「すみだ環境共創区民会議」に参加させていただくこととなりました。まだ一度しか会議へ出席できておりませんが、皆様の環境への姿勢や墨田区を自分達の手で良くしていこうという心意気を感じられ、とても感銘を受けました。

前回会議へ参加させていただいた後、弊社が墨田区に保持している変電所を全箇所確認し、更なる緑化や地域貢献に寄与することができないか等を社内関係者で話し合いを行いました。まだ検討中ではありますが、「地域企業としてできること」を考え、実践していきたいと考えております。

また、脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの普及や、電動車両(EV100)の推進等、CO 排出量の削減についても企業として実践してまいります。

すみだ環境共創区民会議を通して、少しでも墨田区へ貢献できるように、精一杯尽力させていただきたいと思っております。

石川 香

前任者から引継ぎ、今期途中から参加させていただきました。新型コロナウイルスの影響で、なかなか活動ができず、9月に初めて会議に参加することができました。その中で第二次すみだ環境の共創プランの令和元年度における進捗状況について確認し、評価の是非から目標設定の妥当性まで議論されており、墨田区のためにどのような取組をすればよくなるのかを委員の皆様が真剣に議論されていたことに非常に感銘を受けました。

2050年脱炭素社会に向けた潮流が加速していく中、エネルギー事業者としていち早く2019年11月には経営ビジョンに「CO2 ネット・ゼロ」への挑戦を掲げております。今年度はできませんでしたが委員のみなさまに、「ガスの科学館」の施設見学や「エコ・クッキング（環境に配慮した食の取組）」を体験していただき弊社の取組をご紹介しながら、今後の活動のヒントにして頂けるよう、情報提供させていただきたいと思います。

小西 吾乗

今期はコロナの影響で会議の集会が少なく、また、緑化の問題もなかなか前向きな話し合いが難しく成果が形として残せなかったのではないのでしょうか。

色々な課題にもっと積極的に取り組み、協力し合い活動を盛り上げていけたら良いのではないのでしょうか

なにごとに対しても積極的で順応性に欠けているように思われますので、これからは前進に向けて皆さんと頑張っていきたいです。

最近はコロナ、コロナに振り回され、不出の毎日です。早くコロナが収束して、国民が元の生活に戻れることを願っております。

研修のお願い。できれば墨田区内にも数多くの知らない場所があり、大企業の工場の見学、個人ではなかなか受け入れが難しいので区民会議で企画して頂けたら嬉しいです。活動にもプラスになると思い希望します。

橋本 玲子

昨年度はコロナに始まりコロナに終わった一年間でした。活動、行動の制限を全世界の人々が体験した耐えられること強いられた本当に初めての経験でした。

さて、先日ネットのニュースで大変気になることがありました。コロナによる使い捨てマスクの被害です。

大量の使い捨てマスクは、動物の生息地、海洋に至るあらゆる範囲で脅威となっているという事実を写真で訴えていました。プラスチックのごみと使用済みマスク、本当に頭をかかえてしまいました。大量のマスクが分解されるまでには数百年の年月がかかるという事。

環境問題にどの様に向き合っていくのか。来季はもっと真剣にもっと具体的に取り組むべきだと思いました。

まずはコロナの収束を信じたいです。

門倉 美雪

一昨年の台風 19 号以来、墨田区では「水害」についての話題が急激に増えてきました。私も、雨水利用の推進など、墨田区の治水に興味を抱いてきたので、環境の面からも水害についての議論を深めたいと思っていました。墨田の水害では、河川氾濫の事例が多く取り上げられていますが、墨田の水害対策は0メートル以下の地域での水害防止です。河川の氾濫がなくとも、排水が間に合わなければ水が貯まるという現実です。

また、19号台風でも、東京湾の高潮時間帯と台風の目の襲来に若干の差があったため、荒川放水路の水流が滞ることなく、岩淵水門の越水が防げた幸運をありがたく思います。この幸運に安住することなく、今以上の東京湾の水位上昇は、墨田をはじめとした0メートル地域に壊滅的な影響を持ちます。

これからは、地球の温暖化をいかにして防止するか、そして、海水面の上昇もどのように解決するか、そのような環境問題についての視点も大切と思います。

佐原 滋元

緑について活動してきたかと思います。区の緑視率も南部・北部等の見学会を催し、私は街道筋などには緑を感じました。また、北部の路地裏などに小さな緑地を感じ下町の風景が在りました。墨田は独特のまちの構成で、他の区より緑が少ないが、各家庭では工夫して緑を楽しみ、潤いのある住生活やまちの環境に寄与していると感じました。近年、地球温暖化による異常気象など、住生活に不安を与えていると大変感じます。政府は2050年度には、CO₂を実質ゼロにと公約をしました。この様に温暖化について、炭素社会に対して、共創会議で議論し、温暖化について理解したいと思います。

私は、設計業務をしている都合、特に省エネ・断熱工事など又木材を再利用し、所有者にも理解してもらえよう努力しているつもりです。2021年4月より建築では、省エネ法が施行されます。国全体で省エネに対しての取組を始め、経済的にも負担が掛かります。省エネタイプの機器も企業により努力し、また、最近ではコンクリートブロック1個で木材の1本分のCO₂の吸収が見込める素材を開発し、各企業もCO₂の削減に向かって技術の進歩が見られます。共創会議でこの様なことを含め、大いに議論し理解する様に努めていきたいと思います。

笠貫 昇

会議において環境問題に対する質問や疑問を環境保全課に問い合わせしますと、その時の回答は「それは環境保全課の担当ではなく道路公園課になりますので、調べて後日回答します。」このような回答が多々見受けられました。担当が違うので答えられないことは理解できますが、この状態で良いのでしょうか。瞬時に発信できる今の時代に。私は会議に参加して日が浅いので環境保全課へはこの質問、この質問は道路公園課と区別できません。墨田区を緑豊かな住民にやさしい住みやすいきれいな街にしようという目標はどの課も私たちも共通です。

縦割りを乗り越えて行ってほしいと望みます。

橋本 恵子

オリンピックが目前に迫っていた 2020 年初頭は、マイノリティの意見が SDGs の普及など全国的に社会の多様性を尊ぶ風潮でした。しかし、1 月 4 日に報道されるや否や、新型コロナは収まるどころか第 1 波、第 2 波、第 3 波となると、GoTo や医療崩壊など単一的な価値観を押し付けるような人々が現れ互いに批判し合い、さらに他からの批判を恐れるような雰囲気が漂いました。新たな生活様式では工夫実践していかなければなりません。

「艦權の立たぬ海もなし」今も未来も、私達は空気や水など天地大自然の恵みはもとより、衣食住総て家族や社会で働く多くの方々の尊い苦勞に支えられています。

温暖化も分岐点は 2030 年と言われ、悪の根源のように騒がれたレジ袋も石油系原料の削減と CO 排出抑制に貢献できるように変化しつつあります。

私も未来に貢献できる環境づくりを目指して啓発に励んでいきたいと思います。

小木曾 清三

昨年より、目に見えない「コロナ」という未曾有の事態が起きて、生活スタイル等も好むと好まざるに関わらず、変えざるを得ない様です。三密を避けるために会議、講習会等も開催見合わせ状態が続いている。私の仕事、ヘルパーは介護でリモートが出来ないし、話をしないている事はできない。出来る限りの自己防衛をしながら、働らせていただいています。今一度ゆっくり一寸だけ立ち止まって周りを見渡し、振り返って、前進する準備期間かな？等と考えたり...

社会情勢が変わっていく、人の環境が変わりつつある中、その中でも季節は移り変わり、自然は営みを止めてはいません。「自然への畏怖」「自然への畏敬」を持って、色々な思いで私が関わって生ける...

墨田に生まれて「すみだ」を愛するものとして、今後もボランティア活動等を通して「みんなで創る環境にやさしいまち・・・」に出来たら良いな～。コロナの収束を願いながら。快適な街造りなど地元の身近な環境問題に関わりたいと考え、「すみだ環境共創区民会議」に応募しました。

佐野 まさ子

区民会議の活動が新型コロナの影響により制限されましたが、新人委員として、新鮮な気持ちで「環境フェア 2019」、「すみだ環境の共創プラン」の進捗状況評価や墨田区の緑化の推進の現況や課題についての議論に関わることができました。以下は、初めて経験した区民会議の活動について、区民会議の役割などもまだ十分理解できていない新人委員の感想です。

まず、区民会議の運営に関し、多くの委員が墨田区の環境に関する団体に属し活動しており、区民会議は、身近な環境問題、また区や委員が提起する具体的な事項などについて協議する機会があってもよいと感じました。

次に、今期の具体的な活動内容に関し、「フィールドワーク」の実施、「墨田区緑と生物の現況調査報告書」などにより、区民会議は、墨田区の緑化の推進の現況(地域別の緑被率などを含む)や課題などを把握しました。しかし、残念なことは、今期の区民会議が把握した課題などを含め、緑化の現況を踏まえての環境の共創を推進する具体的な事項などを協議する時間がなかったことです。また環境フェアに関しては、出展するのであれば、早めにテーマや展示内容を決めて内容を充実させることが必要であり、テーマも参加者に子供が多いことから工夫することが必要と思いました。

以上、環境保全課の皆様、委員の皆様にご助けられて活動ができ、活動を通じて墨田区の環境関連の施策など、多くのことを学ぶことができた有意義な2年間を振り返っての感想です。

すみだ環境共創区民会議 副会長 土屋 為由

今年の活動を振り返るとやはり新型コロナウイルスの影響について触れざるをえない。昨年度は野外活動を行ったり、「墨田区緑と生物の現況調査報告書」により活発な議論もできた。またこのウィルスでの活動休止中に阿久沢副会長が逝去されたのも大きな痛手ではないだろうか。何よりも早期の収束を祈るばかりである。

これを機会に会議開催方法についてウェブ活用し、オンライン会議を増やし対面会議を減らす等も検討しても良いのではないか。

また、広報についても改善を検討してもらいたい。区の公式ウェブサイトでは会議の議事録は「公式」なものに限られ、月例の会議録はアップされていない。これでは閲覧する区民サイドからすると十分理解を得難いのではないか。情報の発信方法を含めて区民目線で再考してもよいかと思う。

最後に、新たに女性会員からの副会長選任をお願いする。

碓氷 喜信

今期の活動の振り返り

フィールドワークが実施できて良かった。

環境問題に対する抱負

温暖化が進み、洪水・暴風雨の被害が増加する中、共創区民会議には、温暖化の進行を止めるため、緑化が目に見える行動をするよう求められていると感じます。

限られた時間・費用で、速やかに緑化を実現するため、次の提案をします。

すみだ北斎美術館に近い緑町公園テニスコートのフェンスに、蔦・朝顔・ゴーヤ等を植え、美術館来訪者・近隣住民・緑町公園やテニスコート利用者が憩い、安らぎ、緑を実感できるようにします。

前々回の会議で、委員から蔦を寄贈したいとの意見が出たので、先ず蔦を、その後、区の『緑のカーテンコンテスト』で、このフェンスを活用し、その様子を広報紙やツイッター、インスタグラム、ユーチューブ、TV等で区の緑化をPRし、目に見える活動を進めます。

小林 茂美

すみだ環境共創区民会議 委員名簿
【平成31（令和元）年度・令和2年度】

	選出区分	氏名	所属等	備考
1	環境保全活動に実績のある区民及び事業者	宇田川 明	会社員	会長
2		森下 香洋子	株式会社三菱総合研究所 サステナビリティ本部	
3		石川 香	東京電力パワーグリッド株式会社 江東支社	令和2年10月～
4		小西 吾乗	東京ガス株式会社 東京東支店	令和2年9月～
5	環境団体の構成員	橋本 玲子	なでしこ	
6		門倉 美雪	緑と花のサポーター	
7		佐原 滋元	雨水市民の会	
8		笠貫 昇	すみだ景観フォーラム	
9		橋本 恵子	エコライフサポーター	令和2年9月～
10	公募による区民及び区長が必要と認める者	小木曾 清三	公募区民	
11		佐野 まさ子	公募区民	
12		土屋 為由	公募区民	副会長
13		碓氷 喜信	公募区民	
14		小林 茂美	公募区民	令和元年9月～

【退任】

	選出区分	氏名	所属等	備考
1	環境保全活動に実績のある区民及び事業者	吉田 智子	東京ガス株式会社 東部支店	～令和2年3月
2		安田 奈穂美	東京電力パワーグリッド株式会社 江東支社	～令和2年10月

今期当初は副会長として多大なご活躍をされた阿久沢 八代様（所属等：エコライフサポーター）のご逝去を悼み、心より哀悼の意を表します。

ご生前のご厚情に深く感謝し、ご功労に敬意を表すと共に、ご冥福をお祈り申し上げます

すみだ環境共創区民会議

平成31（令和元）年度・令和2年度 活動報告書

令和3年3月

発行 すみだ環境共創区民会議

事務局 墨田区都市整備部環境担当環境保全課